

授業概要

学習指導要領に定められている英語科の指導内容の基準について理解し、学習指導要領を手引きとして、「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の5領域及び複数の領域を統合した言語活動の指導について、授業観察や授業体験、マイクロティーチングを通して体験的に指導する。更に、指導案の作成方法を講義する。また、学習者の特性や個人差、動機づけなどにおいて、第二言語習得論を基に、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても講義する。その上で、高等学校の音声・文字指導において、1単元分程度の授業計画を立て、そのうち1単位時間分程度の模擬授業を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	学習者（1）：年齢
第 3 回	学習者（2）：動機づけ
第 4 回	学習者（3）：学習ストラテジー
第 5 回	学習者（4）：様々な学習者要因
第 6 回	学習指導要領（1）：学習指導要領の変遷
第 7 回	学習指導要領（2）：中学校・高等学校における課題
第 8 回	学習指導要領（3）：最新の学習指導要領
第 9 回	学習指導要領（4）：小学校・中学校・高等学校における基本的な理念
第10回	言語要素の指導（1）：音声（母音・子音）指導
第11回	言語要素の指導（2）：音声変化（リズム・イントネーション）指導
第12回	言語要素の指導（3）：語彙指導
第13回	言語要素の指導（4）：文法指導
第14回	まとめ（1）：模擬授業と振り返り（1）：高等学校の1単位時間分程度の音声授業
第15回	まとめ（2）：模擬授業と振り返り（2）：高等学校の1単位時間分程度の文字授業
第16回	

到達目標

- ① 生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解することができる。
- ② 学習到達目標に基づく授業の組み立てを考え、学習指導案を作成し、指導に生かすことができる。
- ③ 5領域の指導及び複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、指導に生かすことができる。
- ④ 5分～10分のマイクロティーチングや15分～20分の模擬授業が行うことができる。

履修上の注意

外国語（英語）教職課程希望の履修者が望ましい。
「英語科教育法Ⅰ」を同時に履修することが望ましい。

予習・復習

- ① 授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。
- ② 次の授業に備えて与えられた課題を行う。
- ③ 学習目標に沿った授業展開が出来るように指導案を作成し、マイクロティーチングや模擬授業を行えるように準備する。
- ④ 自己の英語力を高めるための学習を行う。

評価方法

レポート（30%）、指導案・模擬授業（40%）、授業態度（30%）

テキスト

テキスト
『新・グローバル時代の英語教育』、岡秀夫他、成美堂、ISBN: 9784791972180

参考資料等
『学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）』『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』『学習指導要領解説 外国語編（中学校・高等学校）』、文部科学省